

失意

〔倭名類聚抄病〕失意 日本紀私記云、失意古々路萬止比

〔日本書紀景行〕四十年是歲、日本武尊更還於尾張略。於是聞近江膽吹山有荒神、即解劔置於宮簀

媛家、而徒行之略。中時山神之興雲零水略。中然凌霧強行、方僅得出、猶失意如醉コ、ロ、マ、ヒ

〔三代實錄光孝〕仁和三年七月卅日辛丑、申時地大震動略。中諸司舍屋及東西京廬舍、往々顛覆、壓殺

者衆、或有失神、頓死者、亥時亦震三度、五畿內七道諸國同日大震、官舍多損、海潮漲陸、溺死者不可勝

計、

眼病

〔下學集支體〕眼膜目病云也

〔源氏物語明石〕御めのなやみさへ、この比おもくならせ給て、ものご、ろほそくおぼされければ、

七月廿よ日のほどに、又かさねて京へかへり給べき宣旨くだる、

〔醫心方五〕治目不明方第十三

病源論云、夫目者五藏六府陰陽精氣皆上注於目、若爲風邪所侵、則令目暗不明也、養生方云、恣樂傷

魂、魂通於目、損肝則目暗、

〔大鏡三條〕つぎのみかど三條院のみかどと申き略。中院にならせ給ひて、御目を御らんせざりし

こそいといみじかりし、ことに人の見たてまつるには、いさ、かかはらせ給ふ事おはしますさ

りければ、そらごとのやうにぞおはしましたしける、御まなこなどもいとよらにおはしますさ

り、いかなるをりにか、ときくは御らんする時もありけり、みすのあみをの見ゆるなどもおほ

せられて、一品宮三條皇女ののぼらせ給へりけるに、辨のめのとの御ともに候が、さしぐしを

左にさ、れたりければ、あこよなどくしはあしくさしたるぞとこそおほせられけれ、この宮を、

ことのほかにかなしうしたでまつらせ給ひて、御ぐしのいとおかしげにおはしますを、さぐり

申させ給ひては、かくうつくしうおはするみぐしをえ見奉らぬこそ心うけれ、くちおしけれと